

第79回火山噴火予知連絡会
全国の火山活動について
(平成10年 6 月～9 月)

1. 主な火山活動

岩手山：統一見解を発表（別紙）。

2. 北海道地方

十 勝 岳：6月中旬から7月にかけて微小な地震が増加した。その後やや収まってきているが、8月に入ってやや大きな地震や震動継続期間の長い地震が時々発生した。62-2火口内では噴気活動が活発・高温化しており、周辺でも新たな噴気活動や地熱地帯の拡大が認められた。9月29日の現地観測で62-2火口底に高さ約2mの熱泥水噴出が確認された。また、火口内の噴気温度は赤外放射温度計で最高456℃を測定した。

樽 前 山：6月11日、8月10日および31日に地震回数がやや増加したが、いずれも短期間で終息した。火山性微動は観測されなかった。

有 珠 山：7月23日に有珠山付近が震源と思われる体を感じる地震（昭和新山植物園で震度1程度）を観測した。

北海道駒ヶ岳：96年南火口列東側地熱域の地中温度がやや上昇した。

3. 東北地方

吾 妻 山：7月13日に地震回数が増加した。

安達太良山：沼ノ平の地温は引き続き上昇の傾向が続いている。

4. 関東・中部地方

那 須 岳：8月3日山頂の北約10kmでM4.9の地震が発生した。火山活動に特に変化はなかった。

富 士 山：低周波地震回数、6月12回、7月9回、8月0回、9月30回

伊豆大島：島内を震源とする地震活動はやや活発化したが、表面現象に変化はなかった。地殻変動観測によると、島の膨張傾向が引き続き観測されている。

新島・神津島：6月25日、新島の西方沖で地震活動が活発化した。

8月24日～29日、神津島周辺で地震活動が活発化した。

三 宅 島：地震回数や表面現象に特に変化はない。

5. 九州地方

九 重 山：全般的に穏やかに推移した。6月5日から6日にかけて九重山の南西7～9kmを震源とする地震が多発し、地震回数は5月70回、6日54回となった。5日12時58分（M3.7）の地震では現地で揺れを感じた。噴煙高度は概ね50～300mで推移したが、6月5日および8月末から9月初めにかけては800mに達した。

阿 蘇 山：阿蘇中岳第一火口は穏やかに推移していたが、9月に入りやや不安定となった。火口底は全面湯だまりで、南側火口壁下の噴湯現象は5月19日から続いている。9月27日には南側火口壁で20m位の土砂噴出があった。火山性地震は9月上旬はやや増加し、9月9日には3回の有感地震（阿蘇郡白水村で震度1）を観測した。火山性連続微動の日平均振幅は0.4μm以下で経過し、孤立型微動の月回数は減少を続けていたが、9月はやや増加した。

桜 島：5月～6月上旬はやや活発な状態となった。火山性地震の群発が5月19日頃から20日0時過ぎまで

続き、この間の地震回数は249回で、19日334回、20日41回となった。群発地震は平成8年6月以来約2年ぶりであった。5月20日から6月6日までに噴火は29回、そのうち爆発は24回観測した。

薩摩硫黄島：4月から日に数十回と増加していた火山性地震は6月には次第に減少し、その後は日に数回～10数回となっていた。9月に入って日に20～40回程度にやや増加している。島内や竹島で月に数回降灰が確認されることがあった。